

1. 『「市民の政府」論』（2006年、生活社刊）はどんな本か
2. 家庭的背景—キリスト教、アメリカへの親和性
 - ・ 田村さんの生涯にキリスト教はどのような影響を与えたのか
 - ・ アメリカに対する親和性（横浜もアメリカを向いた港町）
3. 青山師範付属小学校、府立一中
 - ・ 小学校の「エリート教育」はどのようなものだったのか
 - ・ 田村さんが書き残した小学校
 - ・ 中学3年で結核のため1年休学
4. 旧制静岡高校
 - ・ 静岡高校を選んだ理由—地域から全体を見る視点、その始まり
 - ・ 戦争のための混乱（1年は軍事教練、2年は工場動員、3年は最後の自治寮）
 - ・ 旧制高校から新制高校への転換
5. 戦争—戦争を田村はどう見ていたのか
 - ・ 戦争と軍部
 - ・ 国家とキリスト教
 - ・ アメリカに破れ「民主化」され、旧制高校は新制高校に変わる
6. 東京大学
 - ・ なぜ建築学科を選んだのか
 - ・ 法学部を再受験
7. 中央官庁—運輸省、大蔵省、労働省、農林省、建設省、北海道開発庁
(<http://gendaimachizukurijuku.org/archive/13ronbun8/19930621.pdf>による))
 - ・ 中央官庁に行かなかった理由
8. 日本生命—民間企業に働いた経験は田村に何を与えたのか
 - ・ あるべき産官協調の姿
9. 環境開発センターから横浜市—現実の権力行使の場において田村は何を学んだのか
 - ・ 飛鳥田一雄市長に見る「権力者」のあるべき姿
 - ・ 横浜市民からみる「市民」のあるべき姿
 - ・ その接点にある「市民の政府」とは
10. 法政大学—大学は田村にとってどのような可能性の場だったのか
 - ・ 松下圭一との関係は
 - ・ ジョン・ロック『市民政府論』
11. 自治体学会
 - ・ 1986年創立
 - ・ 地方分権と自治体改革
 - ・ 創立20周年と『「市民の政府」論』

12. 「市民政府」から「市民の政府」へ
- ・ 『現代都市読本』(1994年、東洋経済新報社)
 - ・ 『自治体学入門』(2000年、岩波書店)に「市民政府」
13. まちづくり塾
- ・ 市民を育てる

以 上

参考1:『「市民の政府」論』目次

はじめに
第一章 現代文明と都市政策
第二章 中央集権国家体制の効用と限界
第三章 自治体改革と地方分権
第四章 「市民の政府」の機能と役割
第五章 「市民の政府」の条件と限界
おわりに 「官治」から「民治」へ

参考2:八木雄二『神を哲学した中世 ヨーロッパ精神の源流』(新潮選書、2012年刊)より

「最後に「書いてみて」見えてきたことをお知らせしておこう。それが小著にふさわしいあとがきになると思う。」(p296)

「中世に哲学その他を背景にしてキリスト教が作り出した現代につながる思想は、つぎのものである。

- (1) 人間はほかの動物とは異なり、神に近いものにならなければ本当の人間にはなれない。
- (2) 神には三つのペルソナがあり、そのペルソナは「孤立」を意味する。人間はこのような神に近づく努力(孤独な自己を大切にすること)が必要である。
- (3) 神は未来のすべてを予知している(計画している)。人間も長期的計画を立てて行動することが完成した人間になるために必要である。
- (4) 神に習う(近づく)ことは神の意志(voluntas)を受け取ってキリストのように命を賭して行動することである。それがボランティア(volunteer)である。

つまり低級な人間は動物のようにスポーツに夢中になっていればいいが、真実の人間は思索を十分にもたなければならない、ということであり、真実の人間は他者とのつながりを拒絶してむしろ孤立することに誇りをもたなければいけない、ということであり、真実の人間は長期的戦略を立てる能力を磨かなければならない、という思想である。またボランティアは「余暇の仕事」ではなく、天国がかかっている「使命」である、という思想である。」(p296~297)

「近代から現代に移ってきている間に、この思想は時代の波風にさらされて磨り減っている、と見るのは間違いだろう。いつでも思い出される程度には、ヨーロッパ人の心の奥底に埋め込まれている。だから、昨今、日本ではボランティアで生命を失うことは無意味と見る風潮さえあるけれど、語源的にみれば金銭収入(仕事)のために死ぬことのほうが不合理なのである。この点は、理解できる知識が日本人にも必要だろう。」(p297~298)

『市民の政府』論』関連年表

2019年3月25日

関根龍太郎

年代	世界	日本	思想	法律	田村明関連	備考
1600年代		03 江戸幕府	51 ホブズ『リヴァイヤーン』 90 ロック『統治二論』			*『市民政府論』は、『統治二論』の後半部のみの翻訳につけられた名前
1700年代	76 アメリカ独立 80 頃産業革命 89 フランス革命		62 ルー『社会契約論』			
1800年代		68 明治維新	97 『後世への最大遺物』	89 「大日本帝国憲法」発布	89 父幸太郎誕生 98 母忠子誕生	
1900～45	14～18 第1次世界大戦 17 ロシア革命 29 大恐慌 39～45 第2次世界大戦	31 満州事変 362・26 事件 37 盧溝橋事件 39 ノモンハン事件 41 真珠湾攻撃 42 ミッドウェー海戦 45 東京大空襲・敗戦			21 忠幸誕生 23 義也誕生 26 明誕生 30 千尋誕生 33 青山師範付属小学校入学 38 柿の木坂転居 39 府立一中入学 41 結核のため1年休学 44 旧制静岡高校入学	
1945～88		63 飛鳥田一雄横浜市長	79 長洲一二「地方の時代」	46 「日本国憲法」発布 68 「新都市計画法」	47 東京大学入学 50 卒業法学部入学、運輸省入省 51 免官 53 法学部卒業 54 日本生命入社 55 結婚 63 環境開発センター入社 78 細郷市長 68～81 横浜市 81 法政大学教授 86 自治体学会設立	
1989～1999	89 「バブルの壁崩壊」 93 EU 発足	91 バブル経済崩壊		95 「地方分権推進法」施行 98 「特定非営利活動促進法」成立 99 「地方自治法」改正	96 法政大学退官	
2000～	00 米同時代		06 『「市民の政府」論』 09 『日本に未来をつくる』	00 「地方分権一括法」施行 06 「地方分権改革推進法」	02 現代まちづくり塾開講 ? 横浜まちづくり塾開講	
2010～		11 東日本大震災			10 田村明死去	